

カナダ・ケベック（フランス語圏）の児童書選書にかかわる調査報告書

2019 年 3 月

ケベック児童文学研究家

鈴木 智子

（１）ケベック州の児童文学、その歴史

ケベック州はカナダの東部に位置し、アメリカを含む広大な英語圏に囲まれた北米唯一のフランス語圏の州です。ケベックでは 1920 年代にカトリック団体が子ども向けの雑誌『青い鳥』（*L'oiseau bleu*）¹を刊行し、その雑誌に連載されていたマリー＝クレール・ダベリュイ（Marie-Claire Daveluy）による『ペリーヌとシャルローの冒険』²が独立した本として出版されたところから、児童文学が始まったとされています³。この時代は子どもたちの手本となるように物語が教育的であるという特徴があり、ケベックの入植当時の歴史を子どもに伝える目的で児童文学が出版されていました⁴。

その後第二次世界大戦によってヨーロッパからの本の供給が途絶えたことにより、1940 年代ケベックでは多くの本が出版され、児童文学は一時的な繁栄の時期を迎えます。しかし戦後再びヨーロッパから本が輸入されるようになると、価格や規模などの点で外国の出版社と競争することは困難で、教科書の販売に携わっていた出版社しか生き残れない状況になりました。ケベックの児童文学におけるこのような危機的な状況⁵を変えるために、ベアトリス・クレモン（Béatrice Clément）を中心とする児童文学作家たちが児童文学作家協会（L'Association des écrivains pour la jeunesse）を立ち上げます。児童文学作家協会はケベックの児童文学作品を集めたカタログを作成し、ケベックの児童文学作品や作家が広く世間に認知されるよう働きかけをしたり、作家になりたいと願う若者への支援を行ったりしました。この協会は 1954 年までしか存続しませんでした⁶、児童文学が危機的な状況にあることが広く認識されるきっかけとなりました。

1960 年代はケベックが近代化へと動き出した大きな変化の時代でした。ケベックは入植当時から長い間、教育も含むすべてのことがカトリック教会の影響下にありました。そのため 60 年代に入ると、精神的にはカトリック教会からの自立、経済的にはアメリカ・イギリス資本からの自立を目指す社会改革運動である「静かな革命」（La Révolution tranquille）が起こります。

教育に関しても、それまでカトリック教会が全てを決めていた状況から一変し、教育省が設立され自立していきました。ケベックの出版社は主に教育に関わる書籍を出版することで利益を得ていたために、教育の新たな変化に伴い市場を失うという大きな打撃を受けません。

しかし 1971 年にはポール・ダベリュイ（Paule Daveluy）を中心とする児童文学作家たちが現在も続くコミュニケーション・ジュネス（Communication-Jeunesse）という児童文学協

会を立ち上げ、児童文学を存続させるための活動を始めました。この協会の働きにより、児童文学を普及させるために政府からの資金的援助や出版社の保護政策などがなされるようになりました⁷。

1980年代からは、赤ちゃんに向けた絵本が作られたり、思春期の子どもたちに向けた作品が多く出版されたり、読者の対象も広がっていきました。また教育的な側面を強く持っていた初期の児童文学から自由になり、様々な分野の絵本、物語、小説が生み出されていきました⁸。

（２） ケベック児童文学の情報源

現在のケベック児童文学の作家、作品について、大変有益な情報を得られる書評誌や団体があります。

まずケベック児童文学のみに特化した書評誌『ルルル』(Lurelu)には、ケベック児童文学作品への書評や作家へのインタビュー、論文や、児童文学賞の受賞情報などが掲載されています。1978年に創刊し、現在は年に3回発行しています⁹。また、『ルルル』のサイトにはケベック児童文学の過去から現在に至る文学賞受賞作品一覧のページ¹⁰があるなど、充実した情報がまとまっています。

コミュニカスイオン・ジュネス¹¹は、1971年から現在まで活動を続けている児童文学協会で、今でも引き続きケベックの児童文学、カナダのフランス語で書かれた児童文学の普及に努めています。コミュニカスイオン・ジュネスのサイトでは、著者に関してや作品のあらすじなどの情報を得ることができます。また5歳から8歳、9歳から11歳、12歳以上の3つに分類された読者クラブを主催し、参加者には本の著者と出会うイベントへの参加が可能になるなどの特典が与えられます。さらにこのクラブではそれぞれの読者クラブの子どもたちが投票を行い、最も面白かった本を選ぶというコミュニカスイオン・ジュネス読者クラブコンクール(Palmarès des Clubs de lecture de Communication-Jeunesse)が行われています。

現地で実際の作品を読むためには、ケベック国立図書館(Bibliothèque et Archives nationales du Québec)地下にある児童書のフロアが大変役に立ちます。図書館内にはケベックで出版された児童文学が全て集められている研究センター¹²もあり、作品をセンター内で閲覧することができます。

（３） ケベックの主要な児童文学賞や作家、画家

ブックリストにも掲載した賞についての詳細は、以下の通りです。カナダ総督文学賞(Prix littéraires du Gouverneur général)は、カナダ・カウンシル(Le Conseil des arts du Canada)が主催する賞で、カナダ国籍またはカナダに永住権を持つ作家、画家が書いた最も優れた本に贈られます。児童書部門ではイラストレーション部門、物語部門があり、英語とフランス語の作品それぞれに賞が贈られます¹³。

アルヴィン・ベリズル賞(Prix Alvine-Bélisle)¹⁴は、ASTED(L'Association pour l'avancement

des sciences et des techniques de la documentation) 主催でカナダ人作家のフランス語で書かれた 0 歳から 17 歳までを対象とした児童文学作品に贈られる賞です。元はカナダ図書館協会 (Canadian Library Association) が英語部門とフランス語部門の両方を担っていましたが、1974 年に ASTED がフランス語部門を引き継ぎました¹⁵。

ケベック本屋賞児童文学部門 (Prix des libraires du Québec, Catégorie jeunesse)¹⁶は 2011 年から授与が始まった賞で、本屋や出版業界で高い評価を得たケベック内の児童文学作品、その他の地域の児童文学の 2 つのカテゴリーごとに、優れた作品を表彰しています。

クリスティ賞 (Prix du livre M. Christie) は製菓メーカーによって設立され、1990 年から 2004 年までの間カナダの英語圏とフランス語圏の児童文学に与えられた賞です。当初は物語とイラスト部門の 2 つのカテゴリーで受賞作品が選ばれていましたが、1990 年から 2004 年までは 7 歳以下、8 歳から 11 歳、12 歳から 16 歳の 3 区分の年齢に向けて書かれたフランス語の作品の中からそれぞれ受賞作品が選ばれていました。

ケベック児童文学が発展していく際、中心となった作家の 1 人がシュザンヌ・マルテル (Suzanne Martel) です。マルテルは 1963 年に SF 小説『3000 年、4 人のモンリオール人』¹⁷を発表した後、1974 年に『王の娘、ジャンヌ』¹⁸という作品でケベック児童文学の初期作品で頻りに登場する入植当時のケベックを舞台に据えながら、これまで描かれたことのなかった食べ物や生活様式を生き生きと描きました。その後も入植当時のケベックを舞台にした物語を描き続けました。

ベルトラン・ゴージェ (Bertrand Gauthier) は 70 年代から現代まで引き続き活躍しています。ゴージェは、また作家としてだけではなく、出版社に勤めた経験も長く、編集者としても活躍し、ケベック児童文学の出版業界にも貢献した人物です。1976 年に発表した『やあ、イルヴァ！』¹⁹では 1970 年代以降の社会情勢をユーモアも交えながら皮肉を込めて描きました。他に『ズニック』²⁰という男の子を主人公に、その後シリーズ化もされた作品では、父と子の家庭で起こる日常の様々な出来事を生き生きと描きました。

ドミニク・ドゥメール (Dominique Demers) は様々な年代に向けて多くの作品を書いている作家で、児童文学だけではなく大人向けの文学も多く生み出しています。思春期の 15 歳のマリー・リュンヌを主人公とした 3 部作²¹では、肉親の死や妊娠、出産など、主人公が直面する過酷な現実を描きました。他には主人公シャルロットが様々な職に就きその様子を描いたシリーズ²²でケベック内の児童文学賞を受賞しています。

マリー＝フランシヌ・エベール (Marie-Francine Hébert) も 30 年以上にわたって活躍している作家で、世界中で作品が翻訳され、ケベック内の児童文学賞を数多く受賞しています。メリメロという女の子を主人公として、その後のシリーズにもなった作品『シリアルの中のモンスター』²³では、コミュニケーション・ジュネス読者クラブコンクールで子どもたちから多くの支持を得ました。

1990 年代からは国際的に活躍する画家が増えており、日本でもサイモンを主人公とした絵本²⁴が出版されているギリス・ティボ (Gilles Tibo) や、ゴージェの『やあ、イルヴァ！』

の挿絵や日本で出版されている『ゆきのひのステラ』²⁵などを書いたメアリー＝ルイズ・ゲイ（Marie-Louise Gay）が登場しました。日本では翻訳がありませんが『昔話を語るおじさん』²⁶でカナダ総督文学賞児童書・イラストレーション部門を受賞したピエール・プラット（Pierre Pratt）も世界的に活躍する画家の1人です。

（４） 国際子ども図書館におけるカナダ・ケベック（フランス語圏）の蔵書

既存のカナダ・フランス語圏の蔵書について調査をしたところ、2019年2月時点でカナダ全体においては1,644冊、そのうちフランス語の書籍は486冊（児童書479冊、研究書7冊）が登録されていることがわかりました。これまでの所蔵に関する選定は、カナダ総督文学賞からの選書、国際的な賞にノミネートされた作品等からの選書が行われているとのことでした。

今回の調査にあたり、専門家の意見やリスト作成に関する情報を現地で得るため、2018年10月ケベック国立図書館でのフィールドワークを実施しました。現地ではケベック大学モントリオール校のボードリー教授（Pro. Marie-Christine Beaudry）、ケベック国立図書館司書のリカール氏（Jennifer Ricard）による助言を受けながら、ケベック児童文学全体の動向やリスト作成に関わる研究を進めました。

まず国際子ども図書館に所蔵のある研究書から調査を行ったところ、カナダ、フランス語圏ケベック児童文学の研究書として代表的なエディット・マドール著『ケベック児童文学』²⁷は所蔵されていましたが、ケベック児童文学の歴史や発展経緯に関する研究書はこの1冊のみであることがわかりました。そのためケベック児童文学に関する最も重要な研究書として、フランソワ・ルパーージュ著『児童文学の歴史（ケベックとフランス語圏カナダ）、著者と画家の辞書付録』²⁸をリストに記載しました。この研究書の後半には作家や画家の辞典も付随しており、また2000年までのケベック児童文学の主要な文献が全て記載されている貴重な資料であるため、ケベック児童文学について欠かせない1冊です。他に研究書として所蔵すべき資料を児童文学の専門家に質問したところ、3冊の資料をご指示いただきました。その他すでに述べたように、雑誌『ルルル』もケベック児童文学に特化した書評誌であるため、併せてリストに加えました。

蔵書に関しては、主要な作家の作品が数多く所蔵されていますが、ケベックで出版されいながら、ケベックの作家とは無関係の作品などが含まれているため、今後はケベック内で授与されている文学賞の受賞作品だけではなくノミネート作品や重要な作家の作品をより一層加えていく必要があると考えています。

実際のリスト作成に関しては、まず重要な文学賞受賞作品から網羅していくように心がけました。第一に、主要な文学賞であるカナダ総督文学賞の児童書・フランス語部門に関しては、2000年以前の受賞作品があまり所蔵されていなかったため、重複を除き1987年から現在までの作品をリストアップしました。

児童文学史上重要視されている作品に続き、国内の主要な児童文学賞であるアルヴィン・

ベリズル賞、ケベック本屋賞児童文学部門、クリスティ賞受賞作品を網羅し、エディット・マドール著『ケベック児童文学100の読むべき本』²⁹に掲載されている作品を加えました。また児童文学史上重要な作家で、国際子ども図書館未所蔵の著書や、日本語に翻訳されている「アモス・ダラゴン」(Amos Daragon) シリーズも、ケベックの作家ブリアン・ペロー (Bryan Perro) によるものであるため、全作品をリストに加えました。その他文学賞ではありませんが、(2) で述べたコミュニカスイオン・ジュネスの読者クラブコンクールの入賞作品も加えました。

今回行ったブックリストの作成や国際子ども図書館の蔵書に関する調査がケベック児童文学について知る入り口となり、そしてケベック児童文学全体への興味を深める場となることを心から願ってやみません。

¹ ケベック国立図書館サイト内にデジタル化された資料がある。

<http://numerique.banq.qc.ca/patrimoine/details/52327/2225646>

² DAVELUY, Marie-Claire, *Les aventures de Perrine et de Charlot*, Bibliothèque de l'Action française, 1923.

³ MADORE, Édith, *La littérature pour la jeunesse au Québec*, Boréal, 1994, p.18.

⁴ LEPAGE, Françoise, *Histoire de la littérature pour la jeunesse, Québec et francophonies du Canada, suivie d'un Dictionnaire des auteurs et des illustrateurs*, Éditions David, 2000, pp.114-115.

⁵ MADORE, Édith, op. cit., p.24.

⁶ LEPAGE, Françoise, op. cit., p.231.

⁷ *Ibid.*, pp.278-282.

⁸ *Ibid.*, p.285.

⁹ <https://www.lurelu.net/index.html>

¹⁰ <https://www.lurelu.net/prixlitt.html>

¹¹ <https://www.communication-jeunesse.qc.ca/>

¹² http://www.banq.qc.ca/services/services_specialises/cqrlj/

¹³ <https://livresgg.ca/>

¹⁴ http://asted.org/?page_id=410

¹⁵ 2016年からは Congrès des professionnels et professionnelles de l'information の場で賞が授与されるようになった。

¹⁶ <http://prixdeslibraires.qc.ca/categorie-jeunesse-selection/>

¹⁷ MARTEL, Suzanne, *Quatre Montréalais en l'an 3000*, Éditions du jour, 1963. 『SOS 地底都市』(山内義雄等編、白木茂 訳、依光隆 絵、あかね書房、国際児童文学賞全集〈18〉、1967年) というタイトルで日本語に翻訳されている。

¹⁸ MARTEL, Suzanne, *Jeanne, fille du roy*, Éditions Fides, 1974.

¹⁹ GAUTHIER, Bertrand, *Hou Ilva*, Le Tamanoir, 1976.

²⁰ GAUTHIER, Bertrand, *Zunik*, La courte échelle, 1984.

²¹ DEMERS, Dominique, *Un hiver de tourmente*, La courte échelle, 1992.

DEMERS, Dominique, *Les grands sapins ne meurent pas*, Québec/Amérique, 1993.

DEMERS, Dominique, *Ils dansent dans la tempête*, Québec Amérique jeunesse, 1994.

²² DEMERS, Dominique, *La nouvelle maîtresse*, Québec Amérique jeunesse, 1994.

DEMERS, Dominique, *La mystérieuse bibliothécaire*, Québec Amérique jeunesse, 1997.

²³ HÉBERT, Marie-Francine, *Un monstre dans les céréales*, La courte échelle, 1988.

²⁴ 『なつをたのしむサイモン』、『あきのかぜとサイモン』、『はるをよぶサイモン』、ギリス・ティボ作、しまだこういち 訳、好学社、1995年。

²⁵ 『ゆきのひのステラ』、メアリー＝ルイーゼ・ゲイ 作、江國香織 訳、光村教育図書、2003年。

²⁶ PRATT, Pierre, *Monsieur Ilétaitunefois*, Annick Press, 1998.

²⁷ MADORE, Édith, *La littérature pour la jeunesse au Québec*, Boréal, 1994.

²⁸ LEPAGE, Françoise, *Histoire de la littérature pour la jeunesse, Québec et francophonies du Canada, suivie d'un Dictionnaire des auteurs et des illustrateurs*, Éditions David, 2000.

²⁹ MADORE, Édith, *Les 100 livres québécois pour la jeunesse qu'il faut lire*, Éditions Nota bene, 1998.